

低温ハンダ技術 ブランド化

千住金属工業

MILITERA

Low Temperature Soldering for Earth

材料・装置・工法を提供

千住金属工業（東京都足立区、鈴木良一社長）は、低温ハンダ付け技術に関する新ブランド「ミラテラ」を立ち上げた。スズ・ビスマス合金から成る材料、ウェーブハンダ付け装置やフラックス、工法の三つをそろえたソリューションとして提供できるのが強み。低温ハンダの使用は消費電力量の削減につながる。ブランド化により、製造業のカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）への取り組みを後押しする姿勢を打ち出す。

消費電力量削減に貢献

家電製品の基板のハンダ付けで主流のフロダ槽の設定温度が200度C以下のため、消費電力量を15%抑えられる。スズ・ビスマス合金のハンダ槽で使うスズ・銅が主流。これに対して千住金属工業が開発したスズ・ビスマス合金のフロー式ハンダ付けシステムは、ハンダ槽の設定温度が200度C以下のため、消費電力量を15%抑えられる。スズ・ビスマス合金のハンダはドロス（酸化物）の発生量の多さが課題だったが、ドロスを従来比3分の1に削減する噴流ノズルや、ドロスの7〜8割を溶融ハンダに還元するリサイクル機構を2021年に開発。修正

用やニ入りハンダも改良した。同社のフロー式ハンダ付けシステムは、22年にパナソニックの家電の生産工程に採用された。今後、スズ・ビスマス合金のハンダ製品群を環境負荷の低い「ミラテラ」ブランドとして展開する。

千住金属工業が立ち上げた低温ハンダ付け技術に関する新ブランド「ミラテラ」のロゴマーク

021年に開発。修正

る。

に先駆けて低温ハンダ

に取り組み」としてい